

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	看護における基本技術 I	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
<p>目的: 看護実践の基盤となる考え方を理解し、看護における共通基本技術を習得する。</p> <p>目標: 1 環境調整の援助に必要な知識と技術を習得する。 2 感染予防に必要な知識と技術を習得する。 3 活動・休息に必要な知識と技術を習得する。</p>			
回数	日時	授業計画	授業準備と復習
1	1	1 看護技術とは 技術演習にあたって必要事項の説明 実習室の使い方オリエンテーション	準備: シラバスをよく読み、科目の概要を調べておく。 復習: 実習室の物品の場所や使用ルールを復習する。
2	2	2 療養環境調整 1) 生活環境を整える意義 2) 病室の環境のアセスメントと調整	準備: テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない語句は調べておく。 復習: 「生活環境を整える意味」について、自己の考えをレポートにまとめ、提出する。
3	3	3 療養環境調整演習 1) ベッドメイキング	準備: ベッドメイキングにおける技術の根拠・留意点を整理する動画を観て学習をする。 復習: 実習室で技術練習を行う。
4	4	2) 快適な療養環境の整備	
5	5	4 安全(患者誤認予防) 1) 感染予防(スタンダードプリコーション含む)	準備: 微生物の知識を基に感染とその防御について復習をする。動画を観て学習する。 復習: 感染予防について復習をする。
6	6	5 感染予防演習 1) 手洗い 2) 無菌操作	準備: 技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。 復習: 実習室で技術練習を行う。
7	7	3) 個人防護用具(PPE)の取り扱い方 4) 感染性廃棄物の取り扱い方	
8	6/12 3限	6 活動と休息1 1) 良い姿勢と体位、ボディメカニクス 2) 活動の意義、活動制限による身体への影響 3) 活動のアセスメントの視点	準備: ボディメカニクス・体位変換における技術の根拠・留意点を整理する。 復習: 安楽な体位および、ボディメカニクスを活用した身体の使い方を復習する。
9	7/21 3限	7 活動と休息2 1) 休息・睡眠の意義 2) 睡眠の種類、メカニズム 3) 睡眠障害の種類と要因	準備: 睡眠の種類、メカニズム、睡眠障害の種類と要因について整理する。 復習: 授業内容を復習する。
10	7/27 1 2限	8 活動と休息3 【演習1】 ポジショニング及び体位変換	準備: 体位変換における技術の根拠・留意点を整理する。動画を観て学習する。 復習: 自己の技術を評価する。 実習室で技術練習を行う。
11	9/3 1 2限	9 活動と休息4 【演習2】 移乗と移送 ・車いす⇔ベッドへの移乗と移送 ・ストレッチャー⇔ベッドへの移乗と移送 ・杖・歩行器による歩行介助	準備: 車椅子・ストレッチャーによる移動・移乗の方法と留意点を整理する。 動画を観て学習する。 復習: 実習室で技術練習を行う。
12			
13	9/14 3 4限	10 技術の総括	準備: 自己学習時間を使い、練習を積む。 復習: 実習室で技術練習を行う。
14			

15	9/29 12限	11 技術試験(車いすの移乗)	準備:自己学習時間を使い、練習を積む。 復習:自己の課題を明確にし、不足している技術を練習する。
	履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
	評価方法	筆記試験 他	
	テキスト	医学書院 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
	参考文献		
	履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
	備考		

上記は、提示していた教育課程に日程を入れ込んだものです。小林が担当する単元の目標は、青字になっている部分になります。背景が水色になっている部分は、わたしが行う授業の内容です。赤字のところは、元ある教育課程に小林が追加・修正したものになっています。日程は予定なので、変更になることがあります。

評価方法について

わたしが担当する単元の時間は 15 時間、テストの配点は 55 点分となります。テストの内訳は、今のところ下記を予定しています。

筆記試験 25 点 演習レポート等 10~15 点 技術試験15~20 点

演習レポートや技術試験に関しては、決まり次第お知らせしますが、この範囲の中で設定していきます。初めての技術試験になります。空き時間を利用し計画的に技術を身に付けていきましょう。

6/12、初講に向けての準備

- 形態機能学Ⅰ、橋本先生が講義して下さった、1「動く・活動する」を支える形態と機能を復習しましょう。特に解剖学的基本肢位、良肢位、関節可動域、“座位保持”と“歩く”動作についての分析はよく振り返りをしてください。
- Clinical Study 5 月臨時増刊号の P96~P109(第 11 章運動器系)に取り組み、骨・筋骨格をしっかり理解してください。

上記2つに関して提出は求めませんが、BeNS を活用して理解度を確認しようと思っています。それは来週提示します。

以降、授業内容の予習・復習の具体的な内容に関しては、授業終了時にお知らせしていきます。